

IAMAS RCIC Annual Report 2025

IAMAS産業文化研究センター
2025年度 年次報告書

4	RCICとは
7	連携までの流れ
8	地域連携・産学官連携活動事例
10	文化活動事例
12	IAMAS Community
14	RCICの活動を振り返って
15	スタッフ紹介
16	2025年度 IAMAS 活動事例
20	2025年度活動リスト

各活動情報等については、本センターWebサイトでも公開しております。より詳細な情報や、動画等のコンテンツもご覧いただけます。

本書の各ページに掲載しているQRコードから、それぞれの活動関連ページにアクセスいただくことができます。



RCIC Webサイト



過去の年次報告書



RCIC

Research Center
for Industrial Culture

情報科学芸術大学院大学産業文化研究センター

RCICとは

産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は産業文化に関する学際的・総合的な研究、学外の諸機関との連携、本学の社会的機能の維持・発展を目的に2011年度より開設したIAMASの附置研究機関です。



地域連携・産学官連携活動



文化活動



広報・情報アーカイブ活動

— What We Do

RCICは、(1) IAMASの理念や活動の社会的な実装と展開を目指す「地域連携・産学官連携活動」、(2) IAMASの教育的・文化的な社会貢献を目指す「文化活動」、(3) IAMASの活動を社会に広める「広報・情報アーカイブ活動」の3つの軸に基づき活動しています。

(1) IAMASの理念や活動の社会的な実装と展開を目指す

「地域連携・産学官連携活動」



IAMASの理念や活動を県内外の企業、自治体や教育機関、非営利団体や地域コミュニティ等と連携し、共同研究することを通じて、広く社会に周知し、実装と展開を目指しています。

- 学内シーズ（技術・デザイン等）や研究成果の紹介および研究連携
- 自治体や教育機関、企業等との共同研究や受託研究
- 教育研究機関や地域コミュニティとの連携による新しい教育活動の推進

(2) IAMASの教育的・文化的な社会貢献を目指す

「文化活動」

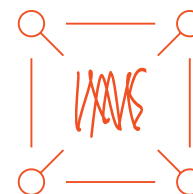


教育機関や文化機関と連携し、学内外の展覧会・交流会・シンポジウム・レクチャー等、大小さまざまな教育的・文化的な催しの運営・補助を行っています。

- IAMAS オープンハウス・卒業制作展の監修
- 学外連携事業の企画運営
- 学内外のシンポジウムやレクチャー等の企画運営

(3) IAMASの活動を社会に広める

「広報・情報アーカイブ活動」



IAMASおよびRCICのWebサイトの運営、広報物の制作・管理、展覧会カタログ等の刊行物制作、学内外のイベントのアーカイブを行っています。また、Webサイト運営を通して、IAMAS卒業生との連携・協力等によるネットワークの強化にも力を入れています。

- Webサイトの企画運営、SNSによる情報発信
- 学内の研究成果報告を目的とした展覧会カタログ・広報物等の制作監修
- 地域連携・産学官連携活動に関する調査報告
- IAMAS卒業生との連携事業の企画運営

— Vision

RCICは、県内外の企業、自治体や教育機関、非営利団体や地域コミュニティ等と連携することで、IAMASの情報科学技術と地域文化研究の成果を深化させるとともに、連携の成果によって地域社会へ貢献することを目指しています。



連携までの流れ

RCICは、連携の相談、教員やプロジェクトとのコーディネート、研究や事業契約の締結等のサポートを行っています。

1

RCIC（産業文化研究センター）へご相談

研究課題・テーマがある方、IAMASの技術・成果に関心がある方



2

連携内容の検討

担当研究者との相談を経て、連携内容を決定



3

連携方法の決定（契約の締結）



共同研究や
受託研究に
該当しない連携

4

共同研究 / 受託研究

— 共同研究

企業等の研究者と本学の教員とが、共通の課題について対等の立場で研究を行う制度です。これに要する経費は双方で負担します。研究は、それぞれの場において進めます。企業研究員を学内に受け入れての共同研究も可能です。双方の研究員が共同で行った発明等にかかる特許権等については、企業等は優先的実施権を行使できます。

— 受託研究

民間企業等からの委託を受けて、本学の教員が研究を実施し、その結果を報告する制度です。これに要する経費は委託者の負担となります。民間企業等からの研究員の派遣は不要です。特許権等は原則として本学に帰属しますが、優先的実施権を行使できます。



5

報告書・成果納品



6

知的財産

※連携の方法によって知的財産権の扱いが異なります。

地域連携・産学官連携活動

フィールドレコーディングワークショップ（岐阜高校・大垣市連携事業）



RCICでは、卒業生と連携して自治体や教育機関とのワークショップの実施に力を入れてきた。本年度は、本学卒業生で音響作家のウエヤマトモコ氏をファシリテーターに迎え、岐阜県立岐阜高校の「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」にRCICが企画協力する形で、岐阜高校の生徒を対象としたフィールドレコーディングのワークショップを実施した。また、同ワークショップを応用し、2017年からIAMASの理念である科学的知性と芸術的感性の融合を小学生向けに展開しているワークショップ「イアマスこどもだいがく」においてもフィールドレコーディングのワークショップを実施した。

運営：赤羽亨（IAMAS教授 / RCICセンター長）、高森順子（RCIC研究員）
撮影：福島諭（RCIC研究員）、伊藤晶子（RCIC情報支援専門職）



イアマスこどもだいがく2025

— フィールドレコーディングで街を再発見する

— 岐阜高校「やながせを聴く」・大垣市「おおがきのおと」ワークショップ

岐阜高校との連携事業「やながせを聴く～フィールドレコーディングワークショップ～」には、岐阜高校の生徒約10名が参加し、岐阜市柳ヶ瀬エリアを歩きながら、街の音や人々の声や生活の気配などを録音し、「音」を通して日常の風景を新たな角度から見つめ直した。収録後、参加者同士で集めた音を聴き合い、街の音を通じた発見を語り合うことで、場所や人との関係を音を通じて再構成していくことを試みた。ワークショップの最後には、音声ARスマートフォンアプリ（AR Audio Guide）を使い、参加者自身が録音した音を仮想的に街の中へ配置。実際にその場を歩きながら聴く「回遊インタラクション」を体験した。また、本ワークショップで作成された地図はぎふメディアコスモス1Fに展示し、ワークショップ当日の“音の記憶”を追体験する場も展開した。



講師：

ウエヤマトモコ

音響作家、サウンドエンジニア 世の中に潜んでいる音と人の関係を探求し、サウンドインスタレーション、フィールドレコーディング、ワークショップ、映画などのサウンドプロダクションを手掛ける。近年作品や録音に、「空宙博F4機体搬入記録映像制作」(2023/企画制作/岐阜かかみがはら航空宇宙博物館)、「港まちまちな音(ね)に浮かぶ」(2023/港まちづくり協議会)、「茂木綾子監督『フィシスの波文』(2024)、峯利子監督『ゆっくりあるく』(2024)、「じぶん、まるいっぽのはなし」(2023)ヴェルナー・ベンツェル+茂木綾子監督『幸福は日々の中に』(2016)、池田泰教監督『3Portraits & June Night』(2012)などがある。

さらに、大垣市情報企画課との連携事業「イアマスこどもだいがく」のワークショップ「おおがきのおと」には大垣市内の小学生約20名が参加し、街の音を通して、日常の風景を見直していった。参加者たちは今回使用するレコーダーなどの道具の使い方の説明を聞いたり、普段は意識しない音を聞くための耳の体操をして、フィールドに出るための準備を進めていった。そして、実際に街へ出かけていき、耳をすまして音を探索し、気になった音を収録していった。フィールドレコーディングから戻ってきた参加者たちは、集めた音のなかから一つを選び、みなでその音を聞き合い、感想を伝え合った。ワークショップで収録した音はサウンドマップ「おおがきのおと」として2026年1月に大垣市役所ロビーにて展示を行った。



「やながせを聴く～フィールドレコーディングワークショップ～」

開催日時：2025年7月10日(木)13:30-17:00
2025年7月11日(金)13:30-16:00

対象：岐阜高校生
主催：岐阜県立岐阜高校
企画：情報科学芸術大学院大学[IAMAS] 産業文化研究センター [RCIC]

イアマスこどもだいがく2025 「おおがきのおと」

開催日時：2025年10月26日(日)9:30-12:00(午前の部)、同日14:00-16:30(午後の部)

対象：大垣市内の小学1年生～6年生
主催：大垣市
協力：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

文化活動

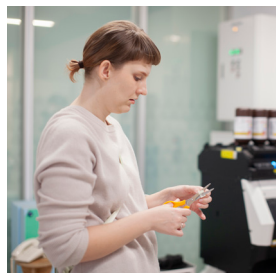
IAMAS アーティスト／リサーチャー・イン・レジデンス2025

IAMASでは、2025年度よりレジデンス事業「IAMASアーティスト／リサーチャー・イン・レジデンス」を開始した。同事業は、国内外の第一線で活躍するアーティストあるいはリサーチャーを招聘し、教職員や学生との交流しながら作品制作や研究活動を行うことを通して、IAMASの建学の理念である「科学的知性と芸術的感性の融合」による新しい創造活動を深めることを目的としている。招聘されたアーティスト／リサーチャーは、一定期間本学周辺地域に滞在し、地域と交流しながら、その独自の視点に基づいて作品制作や研究活動を行い、その成果は作品展示や県民向けの公開講座として報告され、メディア表現を通じた地域との交流や普及を目指す。

初年度となる今回は、映像作家・キュレーターとして活動するジダーノワ アリーナ氏を迎え、「言葉のない手紙」と題したプロジェクトに取り組んだ。滞在期間中は、リサーチのみならず3回にわたるワークショップが開催され、対話やコラージュ制作、身体表現を通して、参加者とともに言葉を介さない他者との対話の可能性を探った。そして、滞在の終わりにはその成果発表として、インスタレーションおよびプロジェクトのプロセス展示を実施し、地域との交流で生まれたメディア表現を発表した。



IAMAS アーティスト／リサーチャー・イン・レジデンス2025



ジダーノワ アリーナ / Zhdanova Alina

モスクワ（ロシア）に生まれ北海道で育つ。現在は京都を拠点に、映像作家・キュレーターとして京都で活動。博士（美術）。京都精華大学メディア表現学部教員。人の記憶や人格、その背景にある社会背景に興味があり、個人や他者の語りを通じて様々な国や街でリサーチを行っている。忘却と想起、記憶の再構築などをテーマに、人が話す日常や記憶をもとに、自作の架空言語やアニメーションをつかって鑑賞者の記憶と対峙するような作品を作る。主な展覧会として「Fictitious」(N project, 2025)、「第1回MIMOCA EYE」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2022)など、主な受賞として「京都新鋭選抜展」最優秀賞（京都文化博物館、2021）、「CAF賞2015」最優秀賞（3331 Arts Chiyoda、2015）などがある。

主催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]・大垣市／作家：ジダーノワ アリーナ／担当：大久保美紀（IAMAS 准教授）／協力：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 産業文化研究センター／撮影：小濱史雄、福島諭（RCIC 研究員）

キックオフ



Zhdanova Alina 上映会

- 上映作品
1. Favoritka 2015, 5'38"
 2. Babushka 2021, 3'20"
 3. Dobe 2'39"
 4. 今とわたし、私ともうひとり 10'01"
- 他

ワークショップ



(1) 忘却をあつめる
思い出せない記憶や言葉にならない感覚の断片を集め、対話をはじめとして記憶のマッピングやコラージュなどの手法で可視化した。

開催日時：2025年9月5日(金) 14:00 - 17:00

(2) 身体への応答
ワークショップ (1) であつめた記憶をもとに、言葉を用いず身体で応答する試みを行った。

開催日時：2025年9月5日(金) 14:00 - 17:00

(3) 記憶の変換
動きや音声をモーションセンサーやマイクで記録・変換し、曖昧な感覚をデータとして蓄積し、表現素材を収集した。

開催日時：2025年9月5日(金) 14:00 - 17:00

オープンスタジオ



制作場所を公開し、これまでの活動における中間発表を行った。

開催日時：2025年10月2日(木) 17:00 - 19:00

会場：ワークショップ24 5階 W506

成果発表展



レジデンス期間中のプロセスを展示するとともに、リサーチやワークショップなどをもとに制作した作品を展示した。会期中はギャラリートツアーも実施した。

開催日時：2025年10月31日(金)、11月1日(土) 12:00 - 18:00

会場：ソフィアジャパンセンター 12階 国際情場サロン

IAMAS Community

IAMAS 卒業生のネットワークを可視化する

IAMASでは、国籍や年齢、分野（アートやデザイン系、理工学系、社会科学系、人文科学系等）が異なる学生が集まり、その違いを超え、互いの考え方に共感したり、議論したりする中で、それぞれの研究を深め合っている。開学から30年を目前にした現在、本学の卒業生数は1000名を超え、多種多様な場で活躍している。

IAMAS Communityでは、2017年から「IAMAS Graduate Interviews」を通して、卒業生が本学での学びをいかに生かして活動しているかをインタビュー記事として紹介する「IAMAS Graduate Interviews」を公開してきた。

2025年度は、引き続き4名のインタビューを公開するとともに、卒業生とIAMASとの協働や、卒業生同士のコミュニケーションの入口となるWebページ「IAMAS Community」を新設し、卒業生のネットワークをより強化し、活性化することを進めている。

運営：赤羽亨（IAMAS教授）、高森順子（RCIC研究員）

編集：山田智子

写真：山田智子、福島諭（RCIC研究員）



IAMAS Community

2025年度公開の「IAMAS Graduate Interviews」

展覧会をつくり続ける—オールラウンダーかつ、スペシャリストであるということ

Vol.39 | 鹿島田知也

キュレーター・エンジニア／2009年修了

2025年8月公開

Interviewer：赤羽亨（IAMAS教授）



2025年8月8日からNTTインターコミュニケーション・センター [ICC] にて開催中のICCキッズ・プログラム2025「みくすとありてい—まよいの森とキミのコンパス」。作家たちが表現した「複合的な現実」(Mixed Reality)を体感する本展覧会のキュレーションをしているのは、ICC学芸員の鹿島田知也さん。出展アーティストとして、会場設営のテクニシャンとして、展覧会に複数の立場からアプローチしてきた経歴をもつ鹿島田さんが考える、展覧会のあり方とは。本展覧会で共同キュレーターを務める赤羽亨教授が聞きました。

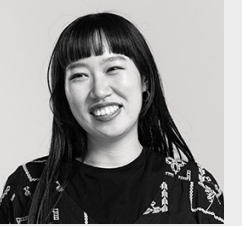
テクノロジーを手段に、社会的課題を解決したい

Vol.40 | 厚木麻耶

クリエイティブ・テクノロジスト、コミュニケーション・プランナー／2021年修了

2025年9月公開

Interviewer：金山智子（IAMAS教授）



世界最大の広告祭「カンヌライオンズ」内で毎年開催される、30歳以下の若手クリエイターを対象とする広告コンペティション「Young Lions Competition / Young Spikes Competition（以下、ヤングカンヌ）」。

若手の登竜門と言われるヤングカンヌで2年連続日本代表に選出され、フランスで開催される世界大会に参加した厚木麻耶さんは、IAMAS卒業後就職した大手広告代理店・電通でどのようにキャリアを築いてきたのでしょうか。金山智子教授が聞きました。

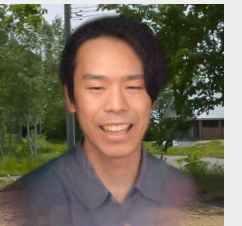
イマココにあるシンタイの冒険

Vol.41 | 守下 誠・ばいそん

xRエンジニア／2022年修了

2025年9月公開

Interviewer：赤松正行（IAMAS教授）



広告代理店でソフトウェアエンジニアとして勤めながら、xR（AR/VR/MR）領域で制作と研究を続ける守下誠（ばいそん）さん。修士研究でAR技術を用いたアプリケーション制作を行なった守下さんが考える、「いまここ」の「身体で遊ぶ」技術のあり方とは。守下さんの指導教員であった赤松正行教授が聞きました。

「自分がジャンルになればいい」IAMASで広がった表現の可能性

Vol.42 | 長野 櫻子

美術作家・アニメーター／2024年修了

2025年10月公開

Interviewer：松井茂（IAMAS教授）



アニメーションをベースに制作を続ける長野櫻子さん。一時は作品の作り方がわからなくなり、IAMASを休学した彼女は、2年間の自問自答を経て、孤独をテーマにした作品を完成させることで復学、卒業を果たし、再び作家として力強く歩み続けています。IAMAS入試時から印象に残っていたと振り返る松井茂教授とともに、表現の可能性を広げ続ける彼女の軌跡を辿ります。

RCICの活動を振り返って

2025年度は、IAMAS関係者が学外の文化施設等において、展示会の企画、展示構成、キュレーションに関与する事例が複数見られました。NTTインターコミュニケーション・センター（ICC）では、「ICC キッズ・プログラム 2025」において、本学教授がキュレーションに携わり、メディアテクノロジーを用いた体験型展示の構成に関与しました。また、水戸芸術館現代美術ギャラリーで開催された展示会「磯崎新：群島としての建築」では、松井教授がゲストキュレーターとして参加しました。さらに、京都市内で開催された展示会「石に話すことを教える：生きるという〈わざ〉」においては、大久保准教授がキュレーションに関与したほか、大垣市内では、IAMASプロジェクトである Extreme Biologies による展示が行われました。

地域連携・産学官連携活動では、岐阜高校で実施した「やながせを聴く〜フィールドレコーディングワークショップ〜」および、大垣市民を対象とした「イアマスこどもだいがく フィールドレコーディングワークショップ『おおがきのおと』」の企画・運営を支援しました。

文化活動においては、「IAMASアーティスト／リサーチャー・イン・レジデンス2025」を新たに開始し、映像作家ジダーノワ・アリーナ氏を迎え、言葉に依存しない対話をテーマとしたプロジェクトを実施しました。

広報・アーカイブ活動としては、卒業生ネットワークの可視化を目的にウェブサイト「IAMAS Community」を新設し、卒業生の活動を紹介するインタビュー記事を公開しました。また、「IAMAS Open House 2025」、「IAMAS Overview」等において、空間デザインシステム「Kiosk」を用いた展示型の学校広報を実施しました。今後は、地域企業との連携強化に向け、県内文化機関や企業との協働体制の構築を進めていく予定です。

RCICセンター長
赤羽亨

スタッフ紹介

RCICは、センター長を含む教員3名、研究員2名、情報支援専門職員1名、技術支援専門職員1名で運営しています。



RCICセンター長 / IAMAS 教授
赤羽 亨 Kyo AKABANE

インタラクションデザインの観点から、メディアテクノロジーを活用した協働デザインのための環境構築に関する実践的な研究を行っている。



IAMAS 教授
前田真二郎 Shinjiro MAEDA

映像作家として撮影行為を基盤とした映像表現を研究。舞台、音楽、美術領域の作家との協働を積極的に展開し、展示会等の企画運営も担当する。



研究員
高森順子 Junko TAKAMORI

RCICでは主に学外の企業や自治体との共同研究・地域連携ネットワーク構築といった連携推進業務を担当する。専門はグループ・ダイナミクス。



技術支援専門職員
浅尾 楽 Raku ASAO

イノベーション工場の運営を担当し、デジタルファブリケーションを活用した研究・連携支援を行う。専門は実験映像。



IAMAS 教授
平林真実 Masami HIRABAYASHI

コミュニケーションシステムという観点から研究を実施。近年はNxPC.Lab 名義の音楽イベントを起点に音楽体験の拡張をテーマとした研究を行っている。



研究員
福島 諭 Satoshi FUKUSHIMA

RCICでは文化活動を担当し、学内外のIAMASに関わる展示会等の企画運営や広報媒体のディレクションなどを行う。専門はアルゴリズム・コンポジション。



情報支援専門職員
伊藤晶子 Shoko ITO

RCICでは主に大学院の広報活動を担当。IAMAS関連のWebの企画・制作・運営を行う。専門は情報デザイン。

— RCICメンバーレポート

RCICでは、IAMASの広報、及び今後のRCICの活動に向けたリサーチの一環として、本学の多様な取り組みの様子や、学内外のユニークで先進的な取り組みを行っている方々の活動等をレポート形式で紹介しています。

レポートは本学Webサイトで常時公開しており、右記QRコードからもご覧いただけます。



RCICメンバーレポート

— お問い合わせ

RCICでは IAMASとの連携に関するご相談を受け付けております。ご希望の方は、メール、または右記お問い合わせフォームよりご連絡ください。

メール : rcic@ml.iamas.ac.jp



お問い合わせフォーム

2025年度 IAMAS 活動事例

Common Nexus STEAM GALLERY: パーフェクトロン + 早川尚志「ミテルスと トキアカス」

実施期間 | 2025.07 -
担当教員 | クワクポリョウタ



左: 展示風景
右上: 体験の様子
右下: 展示風景

早川先生（名古屋大学）が取り組む古天文学は、世界各地に残る古文献の調査を手がかりに、太陽嵐などの長周期の天文現象を解明しようとする学際的なアプローチである。これにより、現代的な観測が始まるはるか以前にさかのぼって天文現象を追跡できる。この研究の面白さを「ばらばらな記録を寄せ集めてひとつの事実を突き止めるプロセス」として抽象化し、ComoNeの来場者が限られた時間のなかで体験できるインスタレーションとして制作した。

※パーフェクトロンはクワクポリョウタと山口レイコのユニット



IAMAS 活動告知

インスタレーションで
研究プロセスの面白さを伝える



日本記号学会第45回大会「繭の記号論」



日本記号学会

実施期間 | 2025.07.05 - 07.06
担当教員 | 大久保美紀



上:メインセッションの様子/下:展示風景(ジャン=ルイ・ボワシエ、平瀬ミキ、井上佑吉、florian gadenne + miki okubo、杉浦今日子)

IAMASで開催した大会では「繭のエティカ: テクノロジーとケア、ヒューマニズム」、「繭のアルス: 先端技術とメディアアートの行方」、「繭のソフィア: 混合、共感、転生の哲学」という3つのメインセッションを企画した。現代世界のテクノロジー的な状況を、西洋近代的な技術観を乗り越えて新たに思考するため、記号論をひとつの軸に、これを異領域と協働し拡張するディスカッションを行った。IAMAS関係の作家、卒業生、学生、学会員を含む作家の協力を得て、展覧会「繭の記号論」を同時開催し、芸術実践からこの問いを深めることができた。

技術をめぐる倫理・芸術・哲学を問い、
メディア表現を新たに思考する

テクノロジーって何だろう? —— 未完了相で 出会い直すための手引き



BNN 書籍情報

実施期間 | 2025.09.20、10.3、10.27、11.1
担当教員 | 小林茂



単著が刊行された後、デザイン、アート、ファブなどさまざまな文脈へと議論を開くため4回のイベントを開催した。第1回はクリエイティブセンター大阪（大阪市）で開催されたイベント「DESIGNEAST」のセッションにて、デザイン研究者で京都工芸繊維大学教授の水野大二郎さんと対談した。第2回はSLOW ART CENTER NAGOYA（名古屋市）にて、参加者からの感想や質問に回答する場を開いた。第3回はFabCafe Tokyo（東京都渋谷区）にて、哲学者の平井靖史さん、FabCafe Tokyo CTOの金岡大輝さんと鼎談した。第4回はFabCafe Kyoto（京都市）にて、参加者からの質問に回答しつつ議論を深めた。



上: FabCafe Kyotoでのトークイベントの様子/下: FabCafe Tokyoでのトークイベントの様子

書籍刊行記念イベント+読書会

— ICC キッズ・プログラム 2025 「みくすとりにありてい—まよいの森とキミのコンパス」

実施期間 | 2025.08.08 - 09.15

担当教員 | 赤羽亨

展覧会「ICC キッズ・プログラム 2025 「みくすとりにありてい—まよいの森とキミのコンパス」」を、卒業生の鹿島田知也氏と共同でキュレーションした。AR技術を活用した「場所」と「音」の関係に注目したスマートフォンアプリ「AR Audio Guide」を用い、展示空間にインタラクティブな音響環境（サウンドスケープ・オーバーレイ）を構築し、鑑賞者が直感的に操作できる体験設計を行った。



上：会場風景／下：津田道子《見えない道、つねにすでに》



展覧会 詳細

XOの研究 成果を展覧会へ展開



展覧会 詳細

— glow in/complete



上：フライヤー／下：会場風景（撮影：丸尾隆一）

実施期間 | 2025.11.28 - 12.10

担当教員 | 赤羽亨、飛谷謙介

本展は、glowがこれまで取り組んできたメディア表現の研究と制作の流れを、あらためてひとつの場として立ち上げるものである。タイトル「in/complete」には、未完成と完成が同時に存在する状態を、そのまま提示するという意図が込められている。制作や研究を完結したものとして示すのではなく、その途中にあるプロセスや試行錯誤の痕跡を共有し、これまでの活動を振り返ると同時に、新たな展開へと踏み出す節目とする展示である。

コレクティブによる、
研究と制作のあいだに立ち上がる表現

— 養老天命反転中! Living Body Museum in Yoro: ワークショップ「バランスからだ自転車」

実施期間 | 2025.10.15 - 16

担当教員 | 赤松正行、瀬川晃

制作 | 赤松正行、小南菜子、志村翔太、鈴木光泰、瀬川晃

協力 | 片倉洸一、小峯愛華、寺田博亮、福井悠人、松本朋己、
村上萌（五十音順）



養老天命反転地30周年記念イベントの一環として、IAMAS運動体設計プロジェクトはワークショップ「バランスからだ自転車」を開催した。反転ハンドルやペダル、三輪自転車、連結自転車など、構造や操作が異なる自転車を体験することで、参加者は普段無意識に行っている身体操作やバランスの取り方に向き合った。年齢を問わず多くの来場者が挑戦し、試行錯誤や他者との協調を通じて、からだの使い方を体感的に学ぶ場となった。

左：IAMAS運動体設計プロジェクトメンバーと自転車
右：360度回転するハンドル
左下：ハンドル&ペダル反転トライク

自転車を通じた
バランス体験の試み



イベントサイト

2025年度活動リスト

名称	開催時期	場所・主催・共済・出版社・その他	担当教職員	カテゴリー
「I Won't Let You Go(あなたを離さない)」『人形玩具研究』かたち・あそび。』2024年 vol.35	2025.3.31	日本人形玩具学会	菅実花	出版・寄稿 / 掲載
小勝諭子「ウェブサイト『アジアの女性アーティスト: ジェンダー、歴史、境界』運営の目的と今後について」『REAR』51号	2025.3.31	芸術批評誌「リア」	菅実花	展示 / 掲載
人の主体感を維持しながら人と人工知能による共創を実現する技術の研究	2025.4.1–2026.3.31	豊田中央研究所	鈴木宣也	共同研究
Art Award in the CUBE 企画委員会	2025.4.1–2026.3.31	岐阜県	瀬川晃	文化活動 / 産学官連携
サイン管理:ソフトピアジャパンセンター	2025.4.1–2026.3.31	伊藤忠アーバンコミュニティグループ	瀬川晃	制作・開発・デザイン / 地域連携
Intergenerational encountering through creative narrative practice: Stories of climate and heritage in the Amami Islands	2025.4.5	Island Symposium 2025 ~ Island narratives of kinship, place, and the weather (場)	金山智子	講演 / 学会
「Unreal.real 輪廻重生」顔勝峻 菅実花 二人展	2025.4.12–5.12	Kurasu HQ UG (場)	菅実花	展示 / 文化活動
KG + DISCOVERY Award Presentation	2025.4.18	KYOTOGRAPHIE (主)、QUESTION 4F Community Step (場)	菅実花	講演 / 受賞
デザインあ展 neo	2025.4.18–10.13	TOKYO NODE, NHK, NHK エデュケーショナル、NHK フロモーション (主)、TOKYO NODE GALLERY A/B/C (場)	クワクポリョウタ	展示 / 文化活動
【今週のギャラリー評】現実と虚構の境界 漂うものを活写 菅実花・顔勝峻展	2025.4.19	京都新聞	菅実花	掲載 / 文化活動
小湊鉄道開業100周年記念展「古往今来・発車オーライ!」	2025.4.26–9.15	市原湖畔美術館 (主) (場)	クワクポリョウタ	展示 / 文化活動
デザインあ neo メイキングススペシャル	2025.5.6	NHK Eテレ	クワクポリョウタ	文化活動
Conserving Art Experience in Evolving Media Milieux: A Case Study of Light on the Net (1996,2024)	2025.5.23	30th International Symposium on Electronic/ Emerging Art (ISEA2025)	小林茂	学会 / 発表
TouchWIM: Object Manipulation in AR Spatial Design With World in Miniature and Hybrid User Interface	2025.5.23	IEEE Access	飛谷謙介、赤羽亨	掲載 / 学会
春の京都が写真一色に染まるイベント KYOTOGRAPHIE 2025 レポート! KG+篇 その3	2025.5.28	玄光社	菅実花	展示 / 掲載
テレビジョンの美学——日本万国博覧会と今野勉の1970年	2025.5.31	藝術学関連学会連合 第19回 公開シンポジウム「芸術と万国博覧会」	松井茂	講演 / フォーラム
生成系AIを活用した内発的挑戦を核とした組織変革とDX推進WG	2025.6.1–2026.2.28	(幹) 岐阜乗合自動車株式会社、株式会社アルジェブラテクノロジーズ、株式会社リリフル、Eclat+ (エクラプラス) (主)	鈴木宣也	産学官連携
Emergent Horizons	2025.6.15–8.31	ArtFocus, Beijing (場)	ホアン・マヌエル・カストロ	展示 / 文化活動
Transforming memory landscapes: an expanded Bergsonian approach to temporal structure in media art experiences	2025.6.26	Artnodes Vol.36: Memory Matters: Navigating the History of Media Art, Science and Technology	小林茂	学会 / 掲載
生成AIを用いたアイデアスケッチの検討報告	2025.6.27–29	日本デザイン学会第72回春季研究発表大会	鈴木宣也	学会
Common Nexus STEAM GALLERY	2025.7.1	Common Nexus (場)	クワクポリョウタ	展示 / 文化活動
日本記号学会第45回大会「蘭の記号論」	2025.7.5–6	情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] (主) (場)	大久保美紀	学会 / フォーラム
“Radio as Care: A Case Study of Radio by Facility for Persons with Severe Physical and Mental Disabilities”	2025.7.13	IAMCR2025 (主)、Nanyang Technological University (場)	金山智子	学会 / 発表
第7回つくばメディアアートフェスティバル	2025.8.1	茨城県つくば美術館 (場)	クワクポリョウタ	展示 / 文化活動
NxPC.Live Urban Concrete Orchestra	2025.8.2	SLOW ART CENETR NAGOYA (場)	平林真実	パフォーマンス・上演 / 共同研究
ICC キッズ・プログラム 2025「みくすとりありていーず——まよいの森とキミのコンパス」	2025.8.8–9.15	NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] (主) (場)	赤羽亨	展示 / 文化活動
第6回さふ美術展 クロストーク 鈴木理策 × 前田真二郎「みるということ」	2025.8.11	岐阜県美術館 (場)	前田真二郎	文化活動
「情報技術とプラグマティズム」研究会・オンラインセッション「記号・時間・ランドスケープ——マルチ時間スケール (MTS) 記号論とメディアアートの可能性」	2025.8.17	日本記号学会第45回大会	小林茂	フォーラム / 発表
「蘭のアルス」IAMAS大会後続編ディスカッション	2025.8.20	二松学舎大学 (場)	小林茂、大久保美紀	フォーラム / 学会

名称	開催時期	場所・主催・共済・出版社・その他	担当教職員	カテゴリー
コモネ こもごも会議	2025.8.20	東海国立大学機構 Common Nexus	鈴木宣也	文化活動
子供の未来にじわじわ効く、「現実の揺らぎ」の体験を。ICC キッズ・プログラム 2025「みくすとりありていーず——まよいの森とキミのコンパス」	2025.8.27	Tokyo Art Beat	赤羽亨	掲載 / 文化活動
テクノロジーって何だろう?——未完了相で出会い直すための手引き	2025.9.18	株式会社ビー・エヌ・エヌ (出)	小林茂	出版・寄稿
DESIGNEAST 2025 (9/20トークイベント)	2025.9.20	CCOクリエイティブセンター大阪 (場)	小林茂	フォーラム
DISTANCE.media 連載「障害とアクセシビリティの未来」	2025.9.20	DISTANCE.media	小林茂	出版・寄稿
風景 / 榊原澄人 + ALIMO	2025.9.27	愛知県立芸術大学 サテライトギャラリー SA・KURA (場)	松井茂	講演
大学研究を地域社会へ展開する実証研究	2025.9.30–2026.3.31	三菱地所、合同会社コマンドA	鈴木宣也、赤羽亨	共同研究 / 展示
コモネ こもごも会議	2025.10.8	東海国立大学機構 Common Nexus	鈴木宣也	文化活動
エフェラルな集まりに関するメディア理論に向けて	2025.10.15	情報化学学会誌	立石祥子	掲載 / 学会
聴き染め 聴き読み～池田町有線放送の古い音源から表現する	2025.10.16	池田町有線放送電話研究会 (主)、土川商店「場所かさじゅう」 (場)	金山智子、瀬川晃	ワークショップ / 地域連携
養老天命反転中! Living Body Museum in Yoro: ワークショップ「バランスから自転車」(運動体設計)	2025.10.25–11.7	荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所、岐阜県、養老公園事務所 (主)、養老天命反転地 (養老公園) (場)	赤松正行、瀬川晃	展示 / 文化活動
「テクノロジーって何だろう? (未完了相) で出会い直すための手引き」トークイベント	2025.10.27	FabCafe Tokyo (場)	小林茂	講演
読書会: 「テクノロジーって何だろう? (未完了相) で出会い直すための手引き」	2025.11.1	FabCafe Kyoto (MTRL KYOTO) (場)	小林茂	ワークショップ
磯崎新: 群島としての建築	2025.11.1	水戸芸術館 (場)	松井茂	展示 / 文化活動
ノートン晶 個展「青と距離」	2025.11.7–23	1839當代藝廊 (主) (場)	菅実花	キュレーション / 展示
高大連携 大垣北高校	2025.11.7	岐阜県立大垣大垣北高等学校	鈴木宣也、瀬川晃	学校間連携
縁き巡礼「詩と歌と土地の語り」	2025.11.7	縁舎 (場)	前林明次	展示 / 文化活動
glow in/complet	2025.11.28–12.10	新宿眼科画廊 (場)	赤羽亨、飛谷謙介	展示 / 共同研究
エイブル・アート・ムーブメント30周年記念フォーラム Space for the Next Things	2025.11.29	一般財団法人たんぼぼの家 (主)、京都市京セラ美術館 (場)	小林茂	フォーラム / 出演
〈複合現実記念碑〉試論—ヴァーチャルな記憶芸術の体験をめぐる—	2025.11.29	情報化学学会第33回全国大会大会、城西国際大学 (場)	立石祥子、前林明次	発表 / 学会
たるい相川こいのぼりデザインコンテスト	2025.11.30	垂井町観光協会	瀬川晃	審査 / 地域連携
「科学」と「愛」の融合を柱に「ケアメディア」を社会に実装する試み「わたしたちのケアメディア」	2025.12.5	週刊読書人 2025年12月5日号 (出)	金山智子	出版・寄稿 / 掲載
磯崎新の身体観——舞踏から空中浮遊へ	2025.12.6	第77回舞踊学会大会、和光大学 (場)	松井茂	学会 / 講演
Extreme Biologies — 極限環境に生きる、眠る、漂う	2025.12.6–14	公益財団法人 大垣市文化事業団、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] (主)、大垣市スイビアセンター アートギャラリー (場)	ホアン・マヌエル・カストロ、前林明次、菅実花	展示 / 共同研究
障害 x デザイン 学びの空間どう作る? 共創シンポジウム	2025.12.7	日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS、多摩美術大学、一般社団法人ドリフターズ・インターナショナル (主)、インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター (場)	小林茂	フォーラム
高大連携 大垣北高校	2025.12.9	岐阜県立大垣大垣北高等学校	鈴木宣也、瀬川晃	学校間連携
NxPC.Live EXTREME COSMOLOGY	2025.12.11	スイトピアセンター コスモドーム (場)	平林真実、前林明次、菅実花	パフォーマンス・上演 / 共同研究
石に話すことを教える: 生の (技術)	2025.12.12	art.sensibilisation (主)、瑞雲庵 (場)	大久保美紀、赤松正行	展示 / 文化活動
2025年度 日本映像学会中部支部 第2回研究会	2025.12.14	オンライン (場)	前田真二郎	学会 / フォーラム
本を書くということについての連続対話	2025.12.18	情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] (主) (場)	小林茂、松井茂	フォーラム
コモの市 #02 — 子どもから大人まで、夢中が交わるマーケット	2025.12.20	東海国立大学機構 Common Nexus	鈴木宣也、クワクポリョウタ	産学官連携 / ワークショップ
クリティカル・サイクリング展	2026.3.14–3.15		赤松正行、瀬川晃	展示 / 共同研究

IAMAS RCIC Annual Report 2025 IAMAS 産業文化研究センター 年次報告書

2026年2月発行

監修 赤羽亨 (RCICセンター長 / IAMAS 教授)
編集 高森順子 (RCIC 研究員)
デザイン 大山千尋
ディレクション 京野朗子 (FLAME)
発行 IAMAS 産業文化研究センター [RCIC]
印刷 丸理印刷株式会社

IAMAS 産業文化研究センター [RCIC]

〒503-0807

岐阜県大垣市今宿6丁目52-18 ワークショップ 24 5階

<https://www.iamas.ac.jp/rcic/>

rcic@ml.iamas.ac.jp



RCIC

Research Center
for Industrial Culture
情報科学芸術大学院大学産業文化研究センター



RCIC

Research Center
for Industrial Culture

情報科学芸術大学院大学産業文化研究センター